

コリッド天井（ロック）

標準施工要領書

目 次

安全に関するご注意（取扱注意事項）	・ ・ ・ ・ ・ 2
設計・施工上の重要品質基準	・ ・ ・ ・ ・ 3
 第 1 章 一般事項	
1－1 適用範囲	・ ・ ・ ・ ・ 4
1－2 各部の名称	・ ・ ・ ・ ・ 4
1－3 部材一覧	・ ・ ・ ・ ・ 5
 第 2 章 標準施工要領	
2－1 鉄板施工	・ ・ ・ ・ ・ 10
2－2 墨出し	・ ・ ・ ・ ・ 10
2－3 廻り縁の取付け	・ ・ ・ ・ ・ 10
2－4 ランナー、横架材の取付け	・ ・ ・ ・ ・ 13
2－5 Tバー直吊り補強およびメイン T バーの取付け	・ ・ ・ ・ ・ 14
2－6 Tバー同士の接続	・ ・ ・ ・ ・ 15
2－7 Tバーと廻り縁の固定	・ ・ ・ ・ ・ 16
2－8 天井板の取付け	・ ・ ・ ・ ・ 17
2－9 自主検査及び全体検査	・ ・ ・ ・ ・ 17
 第 3 章 納まり施工例	
3－1 特殊部の納まり	・ ・ ・ ・ ・ 18
①廊下の曲がり角付近の納まり	



安全に関するご注意(取扱注意事項)

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

1. 搬入時、資材の落下やずり落ちによるケガを防ぎ、腰を痛めないようにしてください。(現場での小運搬は無理のないようにご注意ください。)
2. 鋼材の切り口は鋭利であり、また、切断時にはバリも生じ易いので、手などを傷つけないようにしてください。(軍手等の保護手袋を着用してください。)
3. 素手による取扱い、または素肌の露出部はケガをする恐れがありますのでご注意ください。(素肌をなるべく避けるような服装にしてください。)
4. 梱包用スチールバンドおよび針金等の切断時にはねあがり等によるケガが生じますのでご注意ください。(梱包をとく際は状況判断して作業をしてください。)
5. 搬入時や保管時について次のような事項にご注意ください。
 - ① 運搬に際しては衝撃を与えたり、荷姿を崩したりしないように丁寧に取扱ってください。
 - ② 荷受け時には、注文書と現品を照合して所定の長さ、種類、数量が搬入されているか確認を行ってください。
 - ③ 変形、損傷の有無の確認を行い、検収してください。
 - ④ 原則として、屋内の湿気の少ない場所に保管してください。(やむを得ず屋外に置く場合には防水シートをかけてください。)
 - ⑤ 製品は地面に直接置かず、平らなところにかい木をして水平に置き、積み重ねる場合は間木を施して荷崩れを起こさないように置いてください。
 - ⑥ クレーン荷揚げ等の運搬に関しては、布製平型吊りバンドを使用するなど、製品の角や表面の損傷に注意してください。また、製品の上に重いものを乗せないでください。
 - ⑦ 天井板は、降雨や降雪、その吹き込みによる冠水や湿潤の害を受けないように、常に乾燥していて、清潔で、安全な環境に保管をしてください。また、取扱いに際しては、油気・汚れなどが付着しないように、清潔な手、及び軍手にて行ってください。
 - ⑧ 天井板の隅や角を損傷しないように壁面から1メートル以上離し、床には板や防湿性シートを敷き、かつ平らな面をつくり、その上に置いてください。
6. 天井に重量物を固定すると落下、脱落により、思わぬケガをしたり天井面を破損したりすることがありますので、原則、設置しないでください。
7. 壁に資材を立てかけたりすると倒壊により思わぬケガをすることがあるので、壁には資材を立てかけないでください。
8. 天井に乗ったり、ぶら下がったりすると落下、脱落によりケガをすることがありますので、危険な行為はしないでください。
9. 天井から物を吊るしたり、物を載せたりすると落下や脱落によりケガをしたり、天井周辺を破損することがありますので、原則、設置しないでください。
10. その他、安全使用上問題のある行為は行わないでください。



設計・施工上の重要品質基準

設計・施工上の留意事項

1. 鋼製下地材のく(軀)体への取付けやインサートとの接合は確実に堅牢に行ってください。
2. 配管、空調ダクト、空調機器、照明器具等と鋼製下地材とはそれぞれ独立して取付けてください。
3. 建築物の屋外で特に強度が必要な場所に使用する場合は、監理者に確認を行ってください。
4. 当該コリッド天井は専用の T バー、ハンガー、部材を使用する為、他の物との組合せや当該施工要領書以外の部材を使用しないこととし、施工時は以下の点に留意してください。

- T バー、L バーの外れが無いよう、天井板及びバー材は指示通りの寸法で切断してください。
- 本天井は常時過大な振動・衝撃・風圧・湿気の加わる場所等の特殊な用途には使用不可とします。

使用環境

- ・温度 0℃～40℃
- ・相対湿度 40～80%
- ・風速 5m/s 以下
- ・振動 常時振動無し

使用できない箇所

- ・屋外及び棟外等で温度、湿度の変化が大きい箇所。または、風圧の影響が大きい箇所。
- ・プール、風呂場及び脱衣場等で湿度の高い箇所。
- ・幅 2400mm を超える廊下または空間。

- 施工にあたっては、軍手などを使用し、素手で部材に触れないでください。

- 加工及び工事環境について

- (1) 仕上げに岩綿吸音板を使用する場合は、加工を次のように行ってください。

- I. 岩綿吸音板の切断はカッターナイフなどを使用して行い、切断面が不整形の場合は、やすりやサンドペーパーをかけて整えてください。
- II. 岩綿吸音板の穴あけ、その他加工に関しては、化粧面の方から行ってください。

- (2) 工事環境について

- I. 室内のスプリンクラー、モルタルなどの左官工事等を早めに完了し、十分に乾燥させてください。
- II. 防水、雨じまいは完全に行い、換気、通気をよくし、窓等はガラスをはめ込むなどふさいでおいてください。
- III. 建物が新しく、かつ相当の湿気を持っている場合は、通風を良くし壁面に水滴のない事を確認する。特に寒冷地においては、暖房してください。
- IV. 施工する室内の温度は 5℃～30℃、相対湿度は 80% 以下が好ましく、それ以外になる場合は環境を整える措置をとってください。

第1章 一般事項

1-1 適用範囲

本施工要領書は、天井仕上げ材に岩綿吸音板を使用する『コリッド天井(ロック)』(600×600mm)の施工要領書とし性能担保のため、必ず施工要領書に記載の専用附属金物を使用し、本施工要領書に従って施工を実施すること。

※『コリッド天井(ロック)』は躯体壁もしくは上下躯体(構造体)にランナーを設置した間仕切り壁に囲まれた廊下の天井を対象とする。

※天井下間仕切り、間接照明等がある場合は適用不可もしくは計画変更の可能性があるため注意すること。

本施工要領書の適用範囲は、廊下幅 2400mm 以下、かつ天井重量 11kg/m^2 以下とし、適用範囲を超える条件の場合は、別途検討をすること。

1-2 各部の名称

各部材および附属金物の名称は、次による。(図 1-2-1、1-2-2 参照)

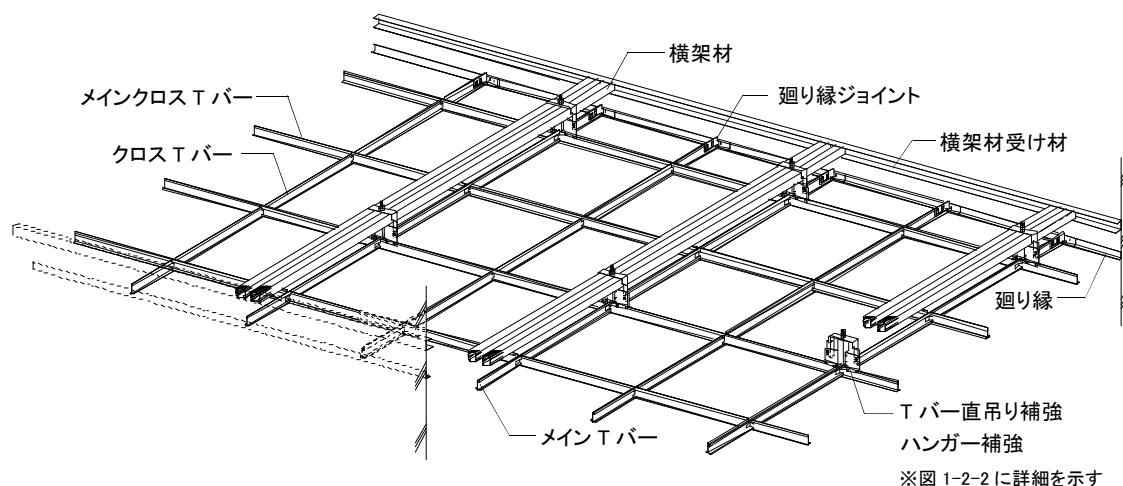


図 1-2-1 コリッド天井(ロック) (例図)

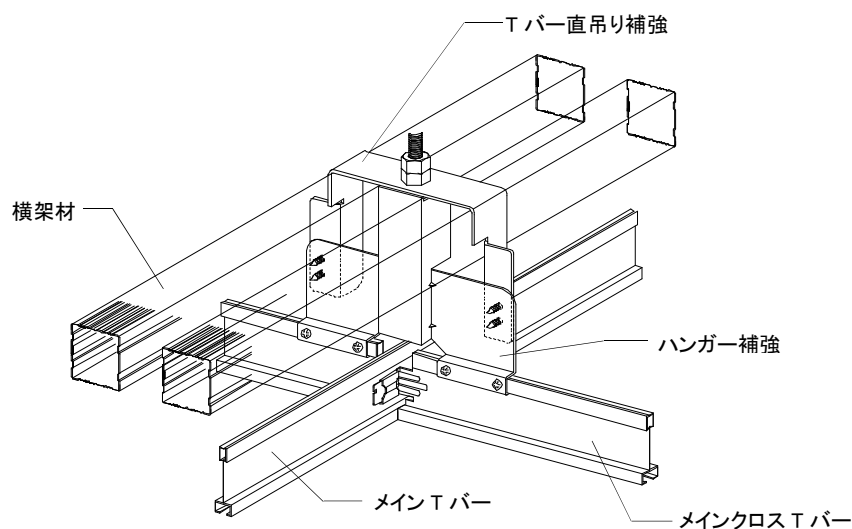


図 1-2-2 Tバー直吊り補強部の名称

1-3 部材一覧

コリッド天井(ロック)を構成する各部の部材一覧を以下に示す。

	部 材 名 称	横架材受け材
	品 名	ランナー(40 ランナー、65 ランナー)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC または SGHC
	表 面 処 理	Z08 以上
	備 考	
	部 材 名 称	横架材
	品 名	SQ バー(SQ-BAR4040、SQ-BAR4565)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z08 以上
	備 考	
	部 材 名 称	T バー直吊り補強
	品 名	AX-SHITA カバー (40)、AX-SHITA カバー (45)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGHC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	SQ-BAR4040 用、SQ-BAR4565 用の 2 種類あり
	部 材 名 称	ハンガー
	品 名	直吊りハンガー(6mm 用) ボルト付
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGHC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	カシメナット M10 ボルト付 M10 ナット付属
	部 材 名 称	ハンガー補強
	品 名	AX-SHITA(S) [t1.6mm]
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGHC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	
	部 材 名 称	メイン T バー
	品 名	eY4815 メイン
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=3600mm
	部 材 名 称	メインクロス T バー
	品 名	eY4815 メインクロス
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=1200mm

	部 材 名 称	クロス T バー
	品 名	eY4815 クロス
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=600mm
	部 材 名 称	メイン T バー
	品 名	eT4015 メイン
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=3600mm
	部 材 名 称	メインクロス T バー
	品 名	eT4015 メインクロス
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=1200mm
	部 材 名 称	クロス T バー
	品 名	eT4015 クロス
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC [t0.4mm]、カラー鋼板 [t0.25mm]
	表 面 処 理	JIS G 3302 Z12, カラー鋼板 塗装膜厚 20 μ (白色)
	備 考	L=600mm
	部 材 名 称	廻り縁
	品 名	eL3520[t=0.6 L=3200]
	規 格 ・ 材 質	カラー鋼板
	表 面 処 理	
	備 考	
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(ストレート用)
	品 名	20L バーストレート J-eL3520(ツメ)
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 をストレートにジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(出隅用)
	品 名	20L バー出隅 J-eL3520(ツメ)
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 を出隅でジョイントする金具

	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(入隅用)
	品 名	20L バー入隅-eL3520(ツメ)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 を入隅でジョイントする金具
<div>左用 右用</div> 	部 材 名 称	廻り縁ジョイント
	品 名	20eTL クロス左、右 H=8-eL3025(ツメ)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※対象Tバーと eL3520 をジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(ストレート用)
	品 名	35L バーストレート J-eL3520(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 をストレートにジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(出隅用)
	品 名	35L バー出隅 J-eL3520(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 を出隅でジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(入隅用)
	品 名	35L バー入隅J-eL3520(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3520 を入隅でジョイントする金具
<div>左用 右用</div> 	部 材 名 称	廻り縁ジョイント
	品 名	eTL クロス H=8 (30-35 兼用ビス) 左、右
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※対象Tバーと eL3520・eL3025 をジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁
	品 名	eL3025[t=0.6 L=3200]
	規 格・材 質	カラー鋼板
	表 面 処 理	
	備 考	

	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(ストレート用)
	品 名	25L バーストレート J-eL3025(ツメ)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 をストレートにジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(出隅用)
	品 名	25L バー出隅 J-eL3025(ツメ)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 を出隅でジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(入隅用)
	品 名	25L バー入隅 J-eL3025(ツメ)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 を入隅でジョイントする金具
<div>左用</div> <div>右用</div>	部 材 名 称	廻り縁ジョイント
	品 名	25eTL クロス H=8 eL3025(ツメ)左、右
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※対象Tバーと eL3025 をジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(ストレート用)
	品 名	30L バーストレート J-eL3025(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 をストレートにジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(出隅用)
	品 名	30L バー出隅 J-eL3025(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 を出隅でジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(入隅用)
	品 名	30L バー入隅 J-eL3025(ビス)
	規 格・材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁 eL3025 を入隅でジョイントする金具

	部 材 名 称	廻り縁
	品 名	AXLL3032 [t=0.6 L=3200]
	規 格 ・ 材 質	カラー鋼板
	表 面 処 理	
	備 考	※AXLL3032 用 eTL クロスは受注生産
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(ストレート用)
	品 名	AXLLーストレートジョイント [t=0.8]
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁AXLL3032 をストレートにジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(出隅用)
	品 名	AXLLー出隅ジョイント [t=0.8]
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁AXLL3032 を出隅でジョイントする金具
	部 材 名 称	廻り縁ジョイント(入隅用)
	品 名	AXLLー入隅ジョイント [t=0.8]
	規 格 ・ 材 質	JIS G 3302 SGCC
	表 面 処 理	Z12 以上
	備 考	※廻り縁AXLL3032 を入隅でジョイントする金具
	部 材 名 称	天井板押さえ
	品 名	廻り縁イタオサエ [t0.3mm]
	規 格 ・ 材 質	SUS バネ鋼
	表 面 処 理	
	備 考	※壁際の天井板の浮き上がりを押える金具
	部 材 名 称	セルフドリリングビス
	品 名	KIRII 耐震ビス(PAN:4.2×16mm 以上)
	規 格 ・ 材 質	JIS B 1124 認証品 ※高耐食仕様のみ JIS B 1124 準拠品
	表 面 処 理	Fe/Zn3c1B 以上 ※ステンレスのビスを用いる場合はサスガード SG 処理品を使用すること。
	備 考	※使用できるビスについては、別添付録資料を参照のこと。

第2章 標準施工要領

2-1 鉄板施工

廊下の壁が鋼製壁下地材で構成されている場合には、天井の横架材受け材(以下「ランナー」という。)、廻り縁を施工する位置に高さ200～300mm程度、板厚0.6～0.8mm程度の鉄板施工を推奨する。(図2-1-1参照)鉄板を施工しない場合にはランナー、廻り縁を確実に壁下地材にビス固定できることを確認すること。

※壁の耐火仕様等の制限に関しては認定取得メーカーに確認し、監理者との協議とする。

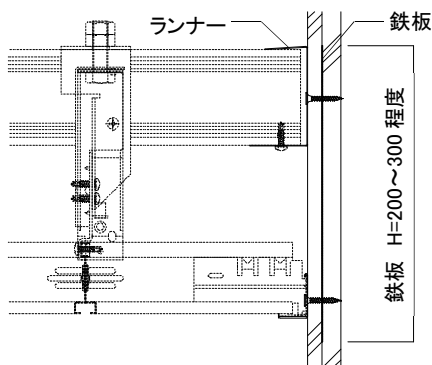


図2-1-1 鉄板施工位置

2-2 墨出し

陸墨を基準に、所定の位置(CH+廻り縁高さ)に墨出しする。(図2-2-1参照)

※ランナーの墨出し位置は使用サイズ、レベル調整代を勘案し設定する。

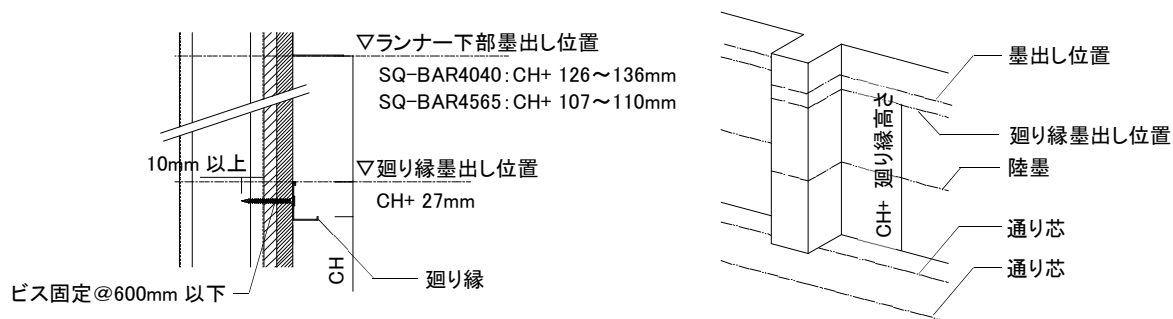


図2-2-1 墨出し位置

2-3 廻り縁の取付け

① 壁面が天井仕上面より250～300mm程度上方まで仕上げてあることを確認する。(図2-3-1参照)

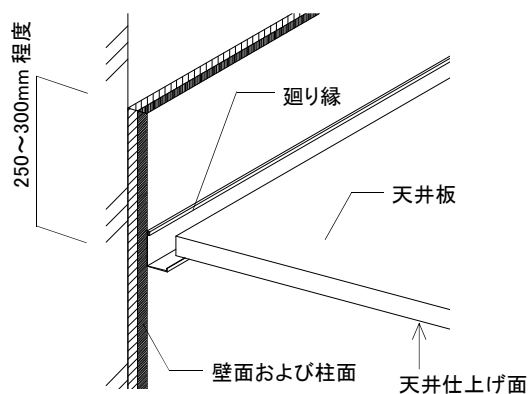


図2-3-1 壁面の仕上がり高さ

②基準墨に沿って廻り縁をビスピッチ@600mm 以下で固定する。端部固定時は廻り縁ジョイントと干渉しないように、端部から 200mm 以内に固定する。(図 2-3-2 参照)

※施工時は、廻り縁を両面テープ等で仮留めすると作業効率が向上する。

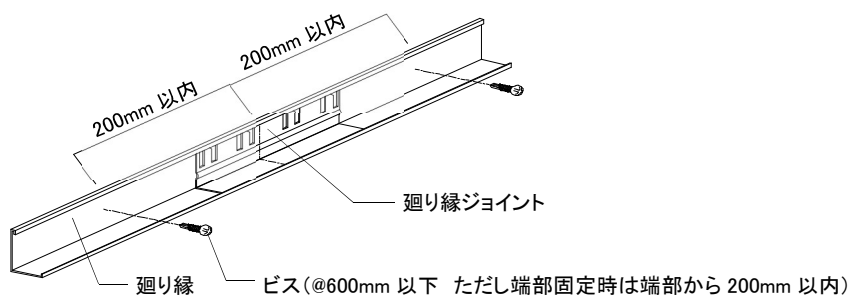


図2-3-2 廻り縁端部のビス固定位置

③切断時は金切り鋸を用いて切断し、切断部分はヤスリ(細目)にて面合わせをすること。

④廻り縁のジョイント部は必ず専用の廻り縁ジョイントを使用し、出隅および入隅については、廻り縁を約 45 度で切断して廻り縁ジョイント(出墨、入墨ジョイント)により接続すること。(図 2-3-3、図 2-3-4 参照)

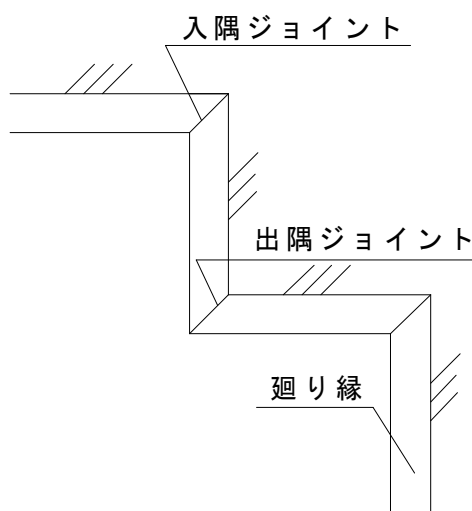
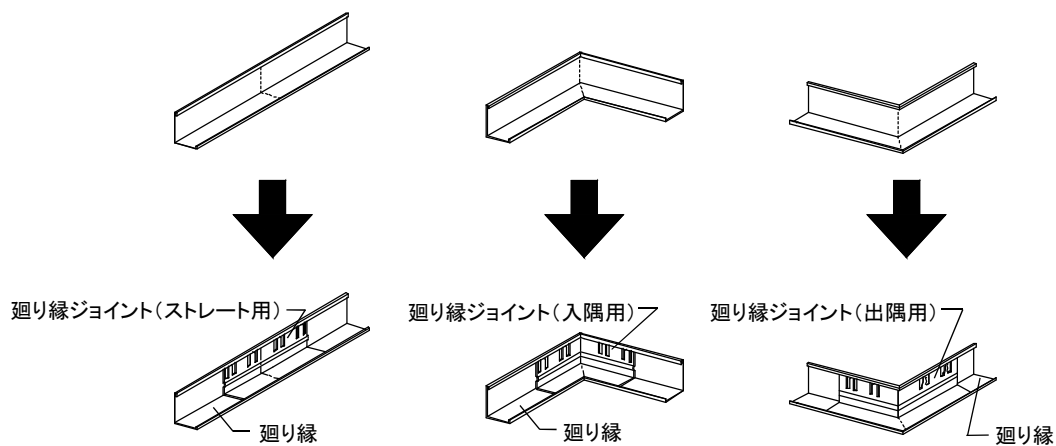
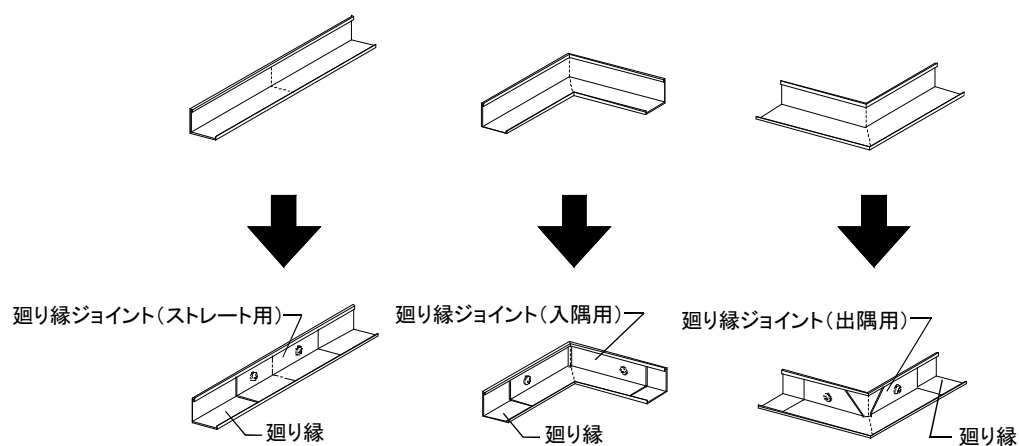


図2-3-3 廻り縁の取付け①(廻り縁の出隅、入隅)



a) 廻り縁ジョイント(ツメ)の場合



b) 廻り縁ジョイント(ビス)の場合

図2-3-4 廻り縁の取付け②(ジョイント方法)

2-4 ランナー、横架材の取付け

- ① ランナーの墨出し位置に沿ってランナーを設置する。
(図 2-4-1 参照)ビスピッチは@600mm 以下とし、鉄板もしくはスタッドに確実に固定するものとする。ビスは鉄板もしくはスタッド貫通後に 10mm 以上の長さを確保できるものを選定する。

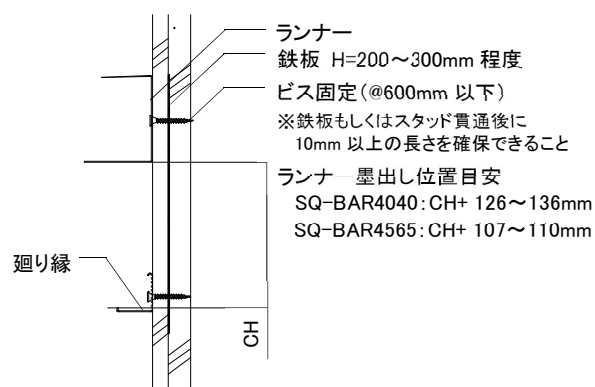


図2-4-1 ランナー墨出し位置目安

- ② メイン T バーの吊り位置を確認し、横架材(以下「SQ バー」という。)施工ピッチを確認する。(図 2-4-2 参照) SQ バーは@1200mm に 2 本設置する。
SQ バーはランナーと全数ビス固定(φ4.2×16 以上)する。長さは原則、廊下幅と同様に 2400mm 以下とし、2400mm を超える場合には別途検討とする。

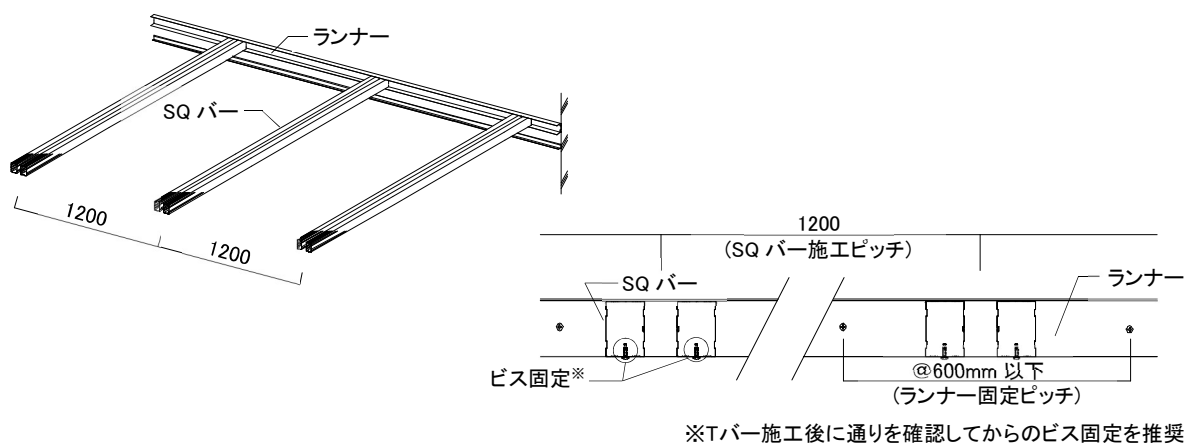


図2-4-2 SQバーの取付け

2-5 Tバー直吊り補強およびメインTバーの取付け

Tバー直吊り補強(以下「AX-SHITA カバー」という。)は以下の手順にて設置する。(図 2-5-1 参照)

- 1) SQ バーに AX-SHITA カバーを設置する。
- 2) ハンガーを取付け、メイン T バーを吊り、レベル調整する。

※上端はダブルナットとする。

※レベル調整後に AX-SHITA カバー側面と SQ バーのビス固定 ($\phi 4.2 \times 16$ 以上 1 本/箇所) を推奨する。

- 3) ハンガー補強(以下「AX-SHITA(S)」という。)を取付け、メインクロス T バーの通りを確認してメインクロス T バーとビス固定 ($\phi 4.2 \times 16$ 以上 2 本/箇所) する。その後 AX-SHITA カバーとビス固定 ($\phi 4.2 \times 16$ 以上 2 本/箇所) する。

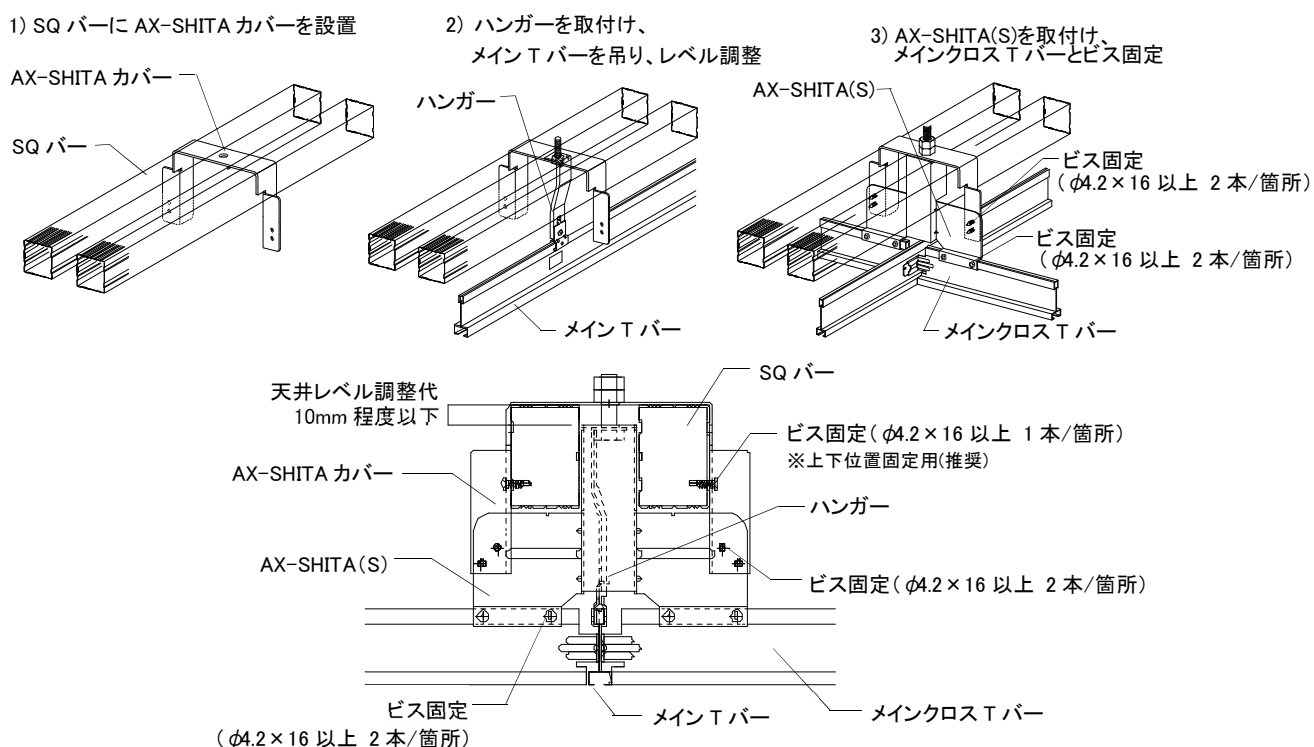


図2-5-1 Tバー直吊り補強の取付け

※ハンガーについては、メイン T バーとメインクロス T バーの交点よりメイン T バー方向に 10 mm 程度ずらした位置に設置すると位置調整が軽微である。(AX-SHITA(S)を取付けるため)(図 2-5-2 参照)

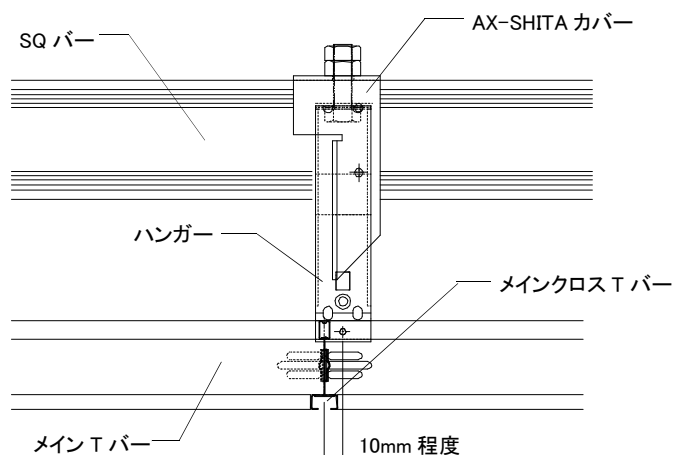


図2-5-2 ハンガー設置位置

2-6 Tバー同士の接続

- ① メイン T バーは SQ バーと平行に 1200mm ピッチで設置する。(図 2-6-1 参照)

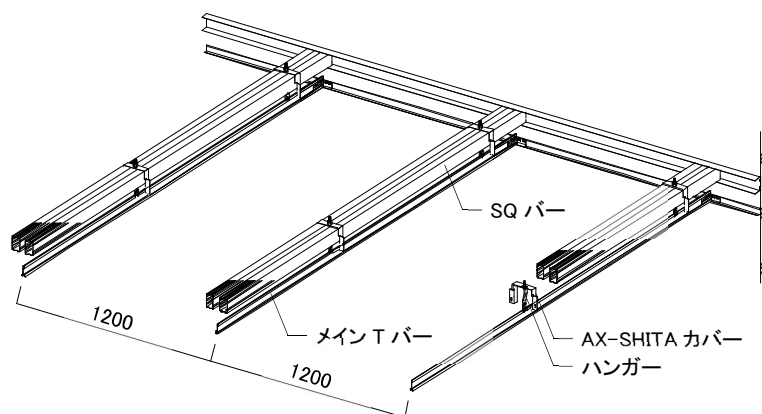


図2-6-1 メインTバーの設置

- ② メインクロス T バーをメイン T バーにジョイントする。(図 2-6-2 参照)

メイン T バーのジョイント孔にメインクロス T バー端部のジョイント爪をスライドさせて差し込み、カチッと音がするまで押し込む。

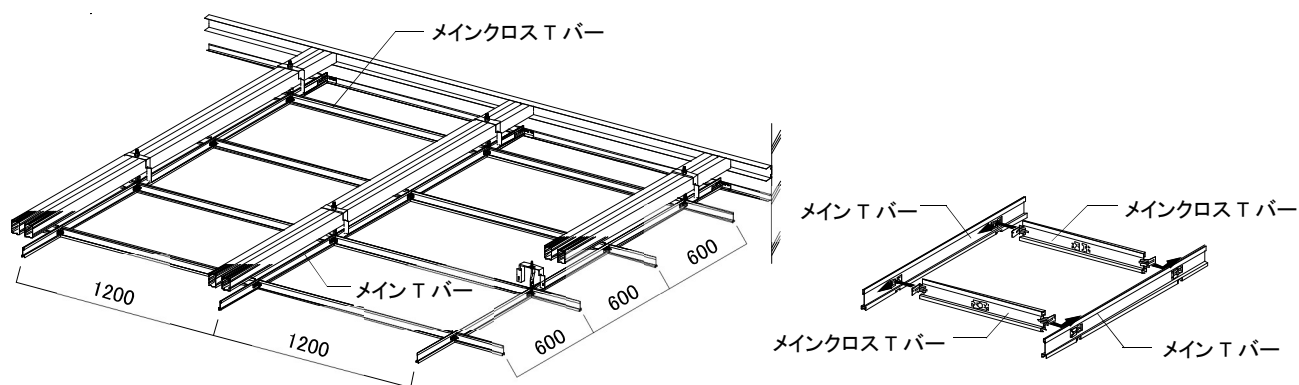


図2-6-2 メインクロスTバーの設置

- ③ クロス T バーをメインクロス T バーにジョイントする。(図 2-6-3 参照)

メインクロス T バーのジョイント孔にクロス T バー端部のジョイント爪をスライドさせて差し込み、カチッと音がするまで押し込む。

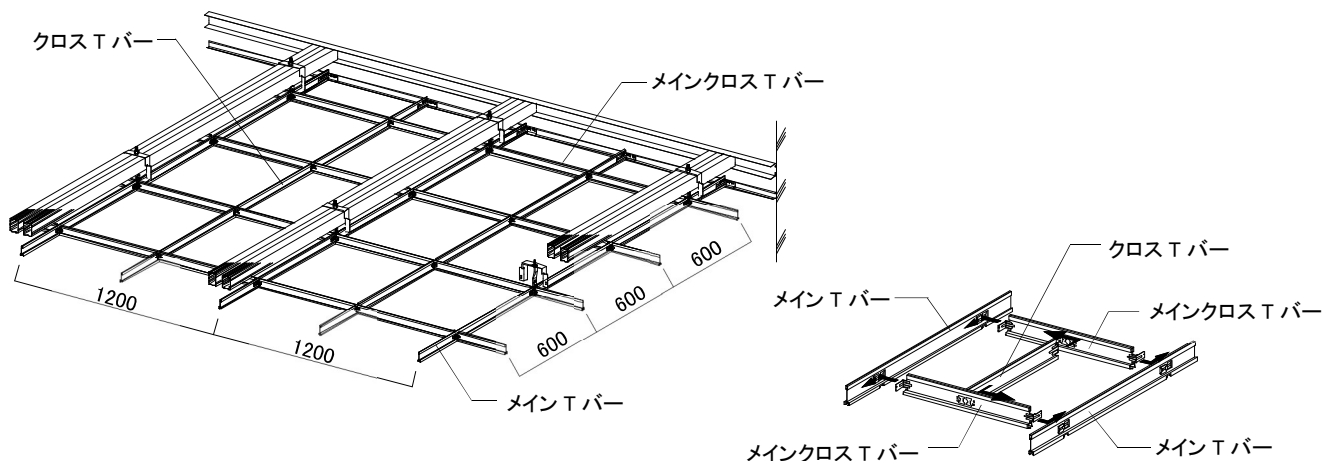


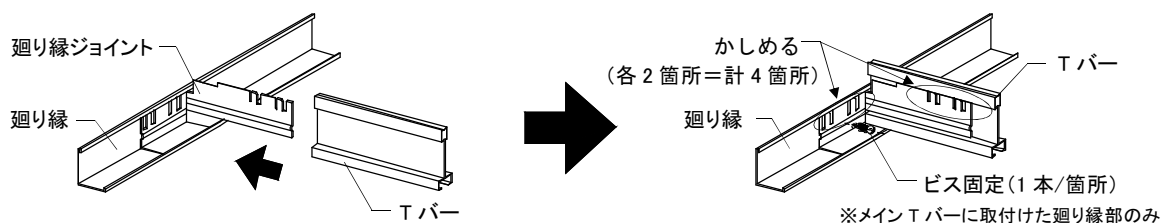
図2-6-3 クロスTバーの設置

2-7 Tバーと廻り縁の固定

① 壁際のTバーと廻り縁を接続する。接続時は、以下の手順に沿うこと。

[eTLクロス(ツメ)を使用する場合(図 2-7-1a 参照)]

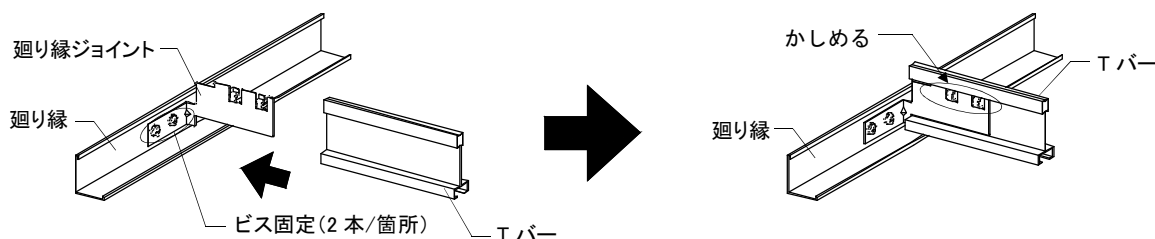
- 1) 廻り縁に廻り縁ジョイント(eTL クロス)を先行して嵌め込む。
- 2) Tバーを廻り縁ジョイントに差し込む。
- 3) Tバーの通りを確認し、廻り縁ジョイントの廻り縁側をかしめて固定する。
- 4) メイン T バーに取付けた廻り縁ジョイントと壁をビス固定(4.2φ×16 以上 1 本/箇所)する。



a)eTLクロス(ツメ)の場合

[eTLクロス(ビス)を使用する場合(図 2-7-1b 参照)]

- 1) 廻り縁に廻り縁ジョイントをビス固定(2 本/箇所)する。
- 2) 廻り縁ジョイントに T バーを嵌め込む。
- 3) T バーの通りを確認し、廻り縁ジョイントの T バー側をかしめて固定する。



b)eTLクロス(ビス)の場合

図2-7-1 Tバーと廻り縁の接続

※廻り縁ジョイント(eTL クロス)は右用と左用があるため、使用時は注意すること。また、障害物等により設置できない場合は反対側に取付けること。

2-8 天井板の設置

- ① 天井板を斜めにし、格子より天井板を T バーより上方へ通し、水平にした天井板を T バーのグリッド内にはめ込む。

※壁際等の端部の天井板が浮き上がる場合は、天井板押さえを使用して天井を押さえる。

- ② 壁際周辺の天井板については、現場で必要寸法を実測して切断して天井板を載せ掛ける。設置時は、以下の点に留意すること。

- 1) 必要寸法は廻り縁及び T バーの内側に出来る四角の大きさを目安にすること。
- 2) 天井板を斜めにし、T バーおよび廻り縁より上方へ通し、天井板を T バーおよび廻り縁に載せ掛ける。
- 3) 天井板は壁際では天井の長手方向の壁と平行になるように配置する。
- 4) 廻り縁およびカーテン BOX 周辺においては、ゆがみ等により若干の寸法誤差があるため、設置時は、天井板1枚毎に実測すること。
- 5) 天井板切断については、カッターナイフで 3~4 回続けて刃を入れ、無理に 1 度で切断しないこと。
- 6) 壁際やコーナー部の天井板を設置の際、必要寸法より短い場合は T バーとの間に隙間が空き天井板が落下する恐れがあるため、必ず必要寸法で切断すること。(図 2-8-1 参照)

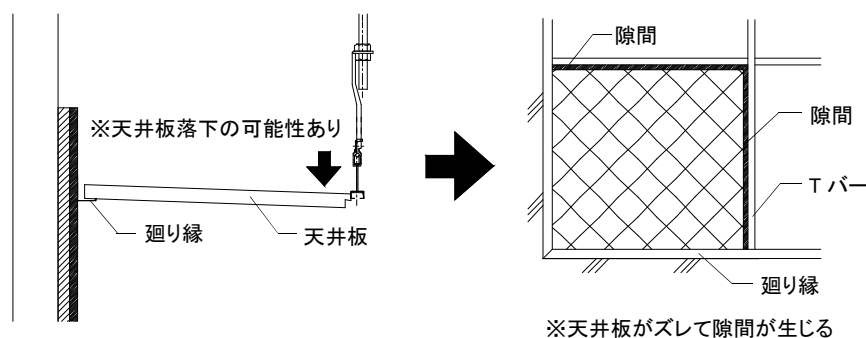


図2-8-1 天井板切断例(必要寸法より短い場合)

2-9 自主検査及び全体検査

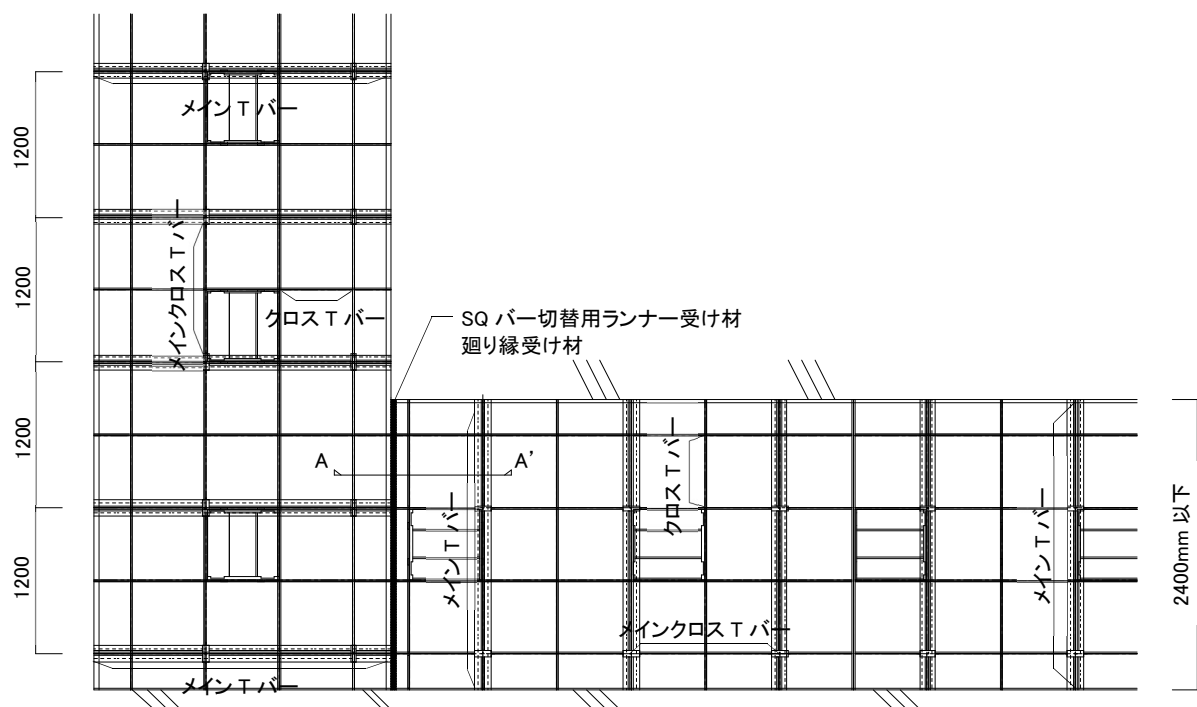
- ① 施工完了後に T バーおよび仕上げ材の取付け状態等を確認すること。
- ② 天井板に異常なキズや汚れが無いことを確認し、補修が必要な場合は補修塗料で直すこと。

第3章 納まり施工例

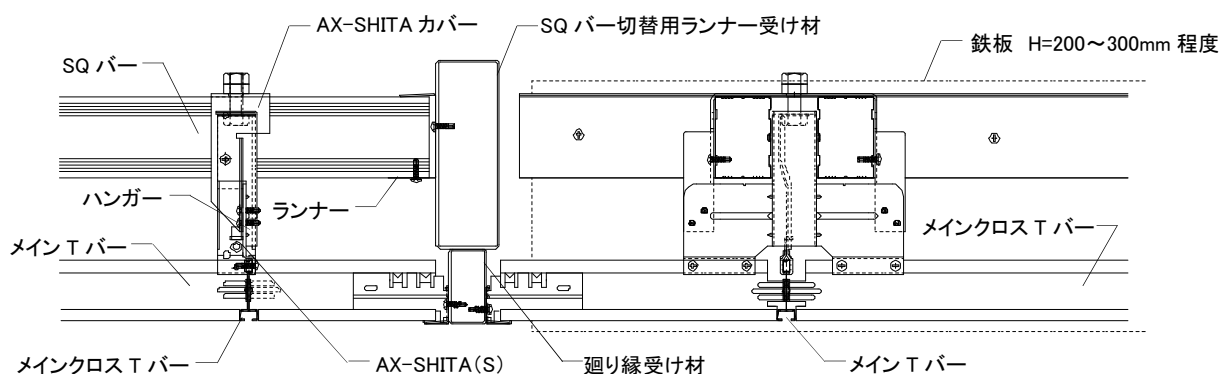
3-1 特殊部の納まり

① 廊下の曲がり角付近の納まり例(図 3-1-1 参照)

廊下の曲がり角等では SQ バーの設置方向が変わるため、SQ バー切替用のランナー受け材(別途鉄骨工事)を設置する。設置部材、設置方法等は設計図書に示されたものとし、指示がない場合は監理者または管理者に確認すること。また、SQ バーの設置方向の変更に伴いメイン T バーの方向も変わるため、天井の縁切り用の廻り縁受け材の設置も必要となる。SQ バーランナー受け材同様に設計図書に示されたものとし、指示がない場合は監理者または管理者に確認すること。



a)特殊納まり部(平面)



b)特殊納まり部(断面) A-A'

図 3-1-1 (参考例)特殊納まり部

コリッド天井(ロック) 標準施工要領書

2016年 4月 1日 初 版 (ver.201604a)

2020年 4月13日 第4版 (ver.202004a)

2020年12月25日 第5版 (ver.202012a)

2023年10月 1日 第6版 (ver.202310a)

2024年 2月13日 第7版 (ver.202402a)

株式会社桐井製作所

〒100-6605 東京都千代田区丸の内 1-9-2 グラントウキョウサウスタワー5階

TEL (03) 4345-6005 FAX (03) 6895-0220

※商品改良等の為、予告無く規格その他を変更することがありますのでご了承ください。

※本書の内容の一部または全部を、当社の許可なしに複製、複写、転載することを禁じます。